

学校施設の老朽化対策について

(1) 学校施設老朽化対策の 取組状況について

これまでの老朽化対策の取組状況

【平成26～28年度】

- ①校舎等の老朽化対策調査の実施（小学校21校及び中学校11校）

【平成29～30年度】

- ①府中市学校施設老朽化対策推進協議会の設置

- ・ 諮問事項：府中市学校施設改築・長寿命化改修計画素案の作成について
- ・ 答申提出：平成30年9月末
- ・ 開催回数：9回

- ②校舎等の老朽化対策調査結果の報告（平成29年8月22日文教委員協議会）

老朽化対策の優先度に応じたグループ分け

- ・ 早期改築着手校：2校（八小及び一中）
- ・ 1グループ：10校
- ・ 2グループ：21校

老朽化対策の今後の進め方(予定)

【平成30年度】

- ①児童・生徒及び保護者に対するアンケートの実施（平成30年6月）
- ②早期改築着手校（八小及びび一中）のワークショップの実施（平成30年9月）
- ③早期改築着手校（八小及びび一中）の基本構想の作成（平成31年3月）

【平成31（2019）・32（2020）年度】

- ①学校施設改築・長寿命化改修計画（仮称）の策定（平成32（2020）年3月）
- ②早期改築着手校（八小及びび一中）の基本設計・実施設計の実施
- ③早期改築着手校（八小及びび一中）の仮設校舎の建設

【平成33（2021）・34（2022）年度】

- ①早期改築着手校（八小及びび一中）の既存校舎の解体
- ②早期改築着手校（八小及びび一中）の新校舎の建設
- ③次の改築校（1グループから選定）の基本構想の作成

(2) 市立小中学校の校舎等における 老朽化対策調査について

老朽化対策調査について

- 平成26年度から平成28年度の3か年で、校舎等の老朽化対策調査を実施
- 調査の結果を踏まえ、校舎の老朽化対策の優先度に応じたグループ分け

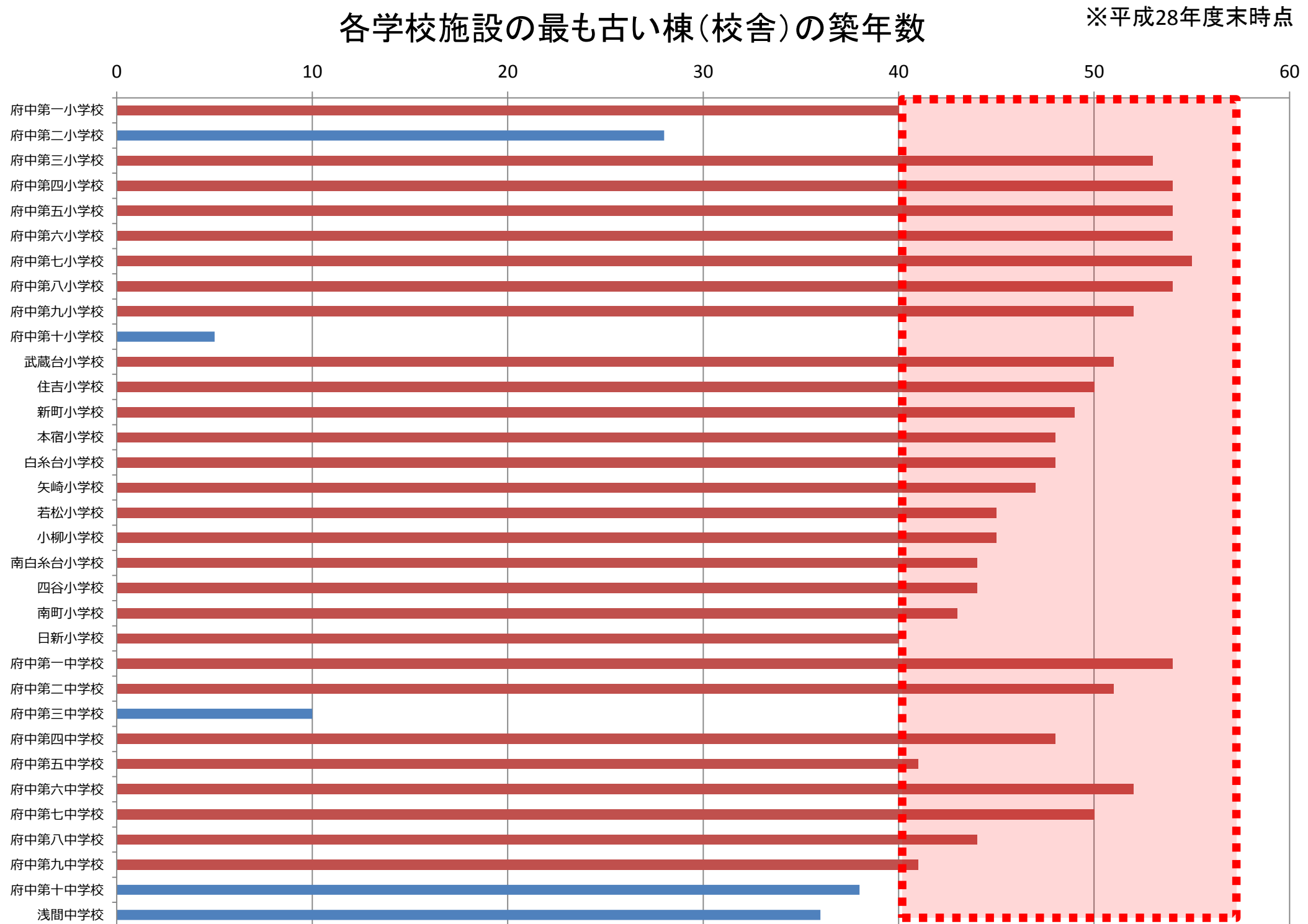
グループ	学校名	
早期改築着手校 (2校)	小学校(1校)	八小
	中学校(1校)	一中
1グループ (10校)	小学校(8校)	三小、四小、五小、六小、七小、九小、武蔵台小及び矢崎小
	中学校(2校)	二中及び六中
2グループ (21校)	小学校(13校)	一小、二小、十小、住吉小、新町小、本宿小、白糸台小、若松小、小柳小、南白糸台小、四谷小、南町小及び日新小
	中学校(8校)	三中、四中、五中、七中、八中、九中、十中及び浅間中

- 早期改築着手校については、平成30年度に校舎等の改築に係る基本構想を作成します。
- 1グループ及び2グループについては、老朽化対策調査の結果に加え、児童生徒数の将来推計、教育環境、近隣の公共施設の状況等を踏まえ、総合的に判断した老朽化対策の優先度を学校施設改築・長寿命化改修計画（仮称）で、必要な範囲で示していきます。

(3)本市の学校施設を取り巻く 現状について

本市の学校施設を取り巻く現状①

特徴1：校舎が築40年を超える学校が大多数を占める



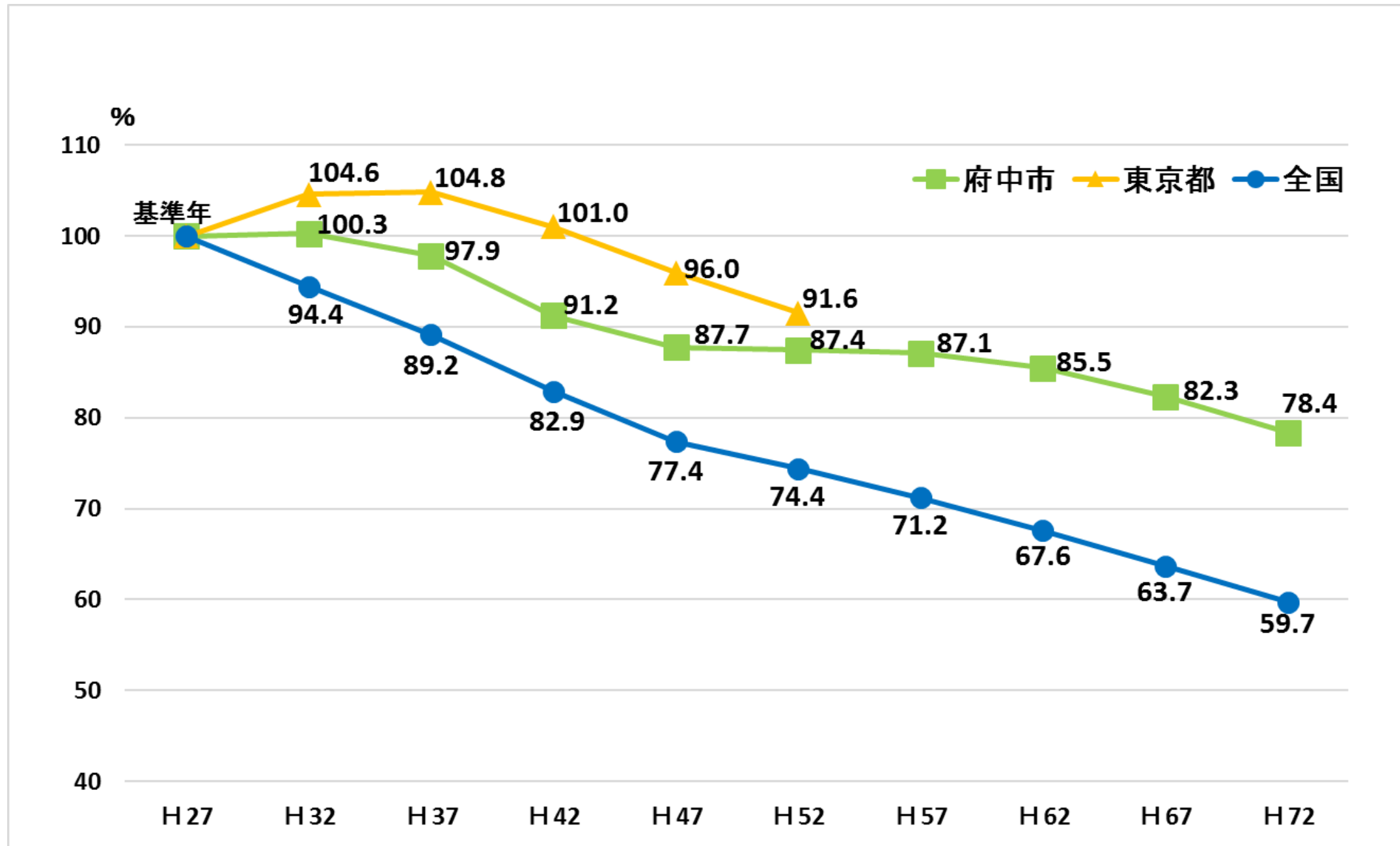
(注)府中第五中学校は、平成24年度に普通教室棟等の改築が完了しているが、一部の棟で改築が未実施のため、未改築の棟の築年数を掲載

本市の学校施設を取り巻く現状②

特徴2: 将来の児童・生徒数の減少率は、全国と比べて低い。

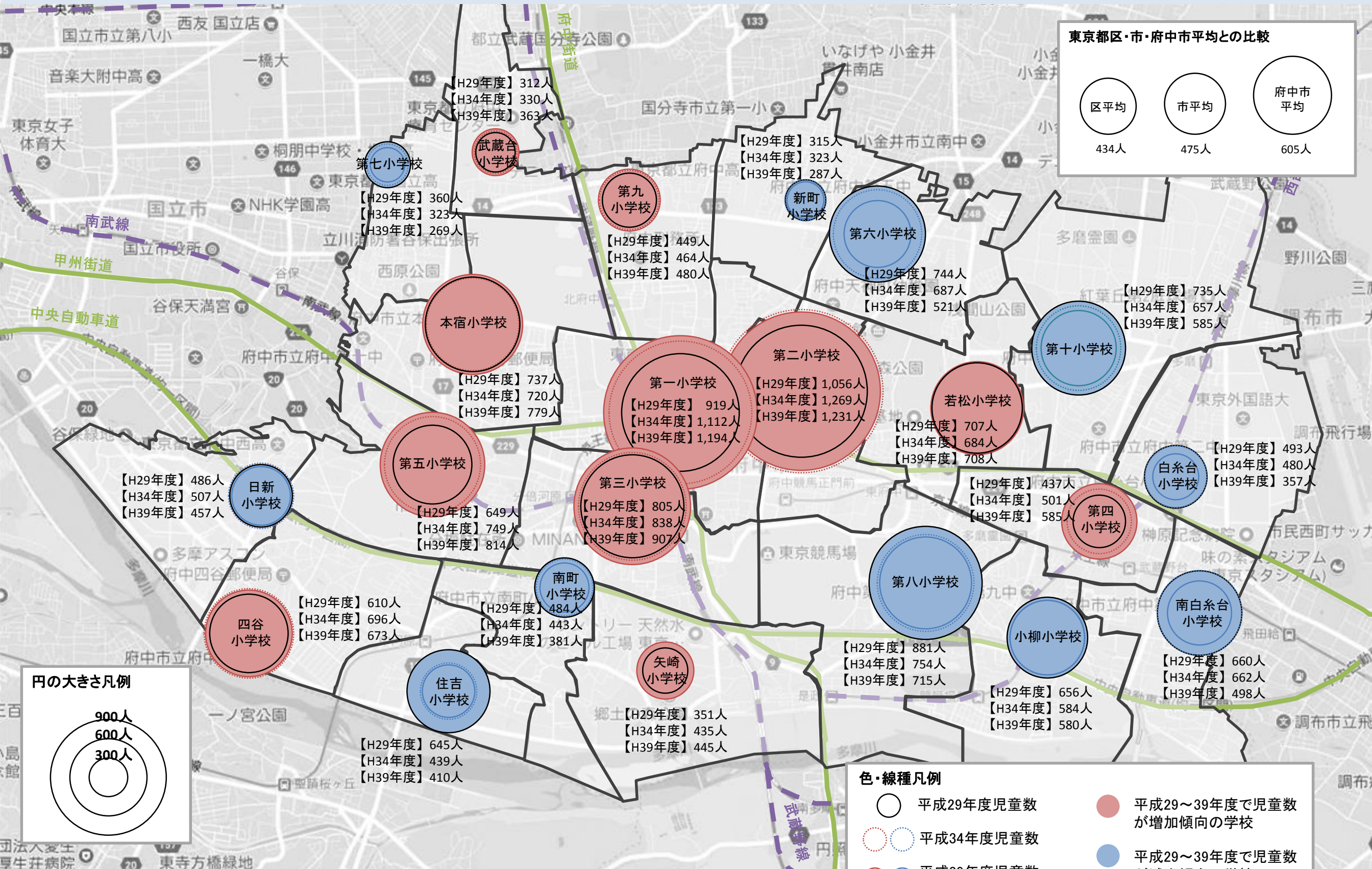
府中市と東京都・全国の5～14歳将来人口の増減率の比較

※平成27年を基準年とする。



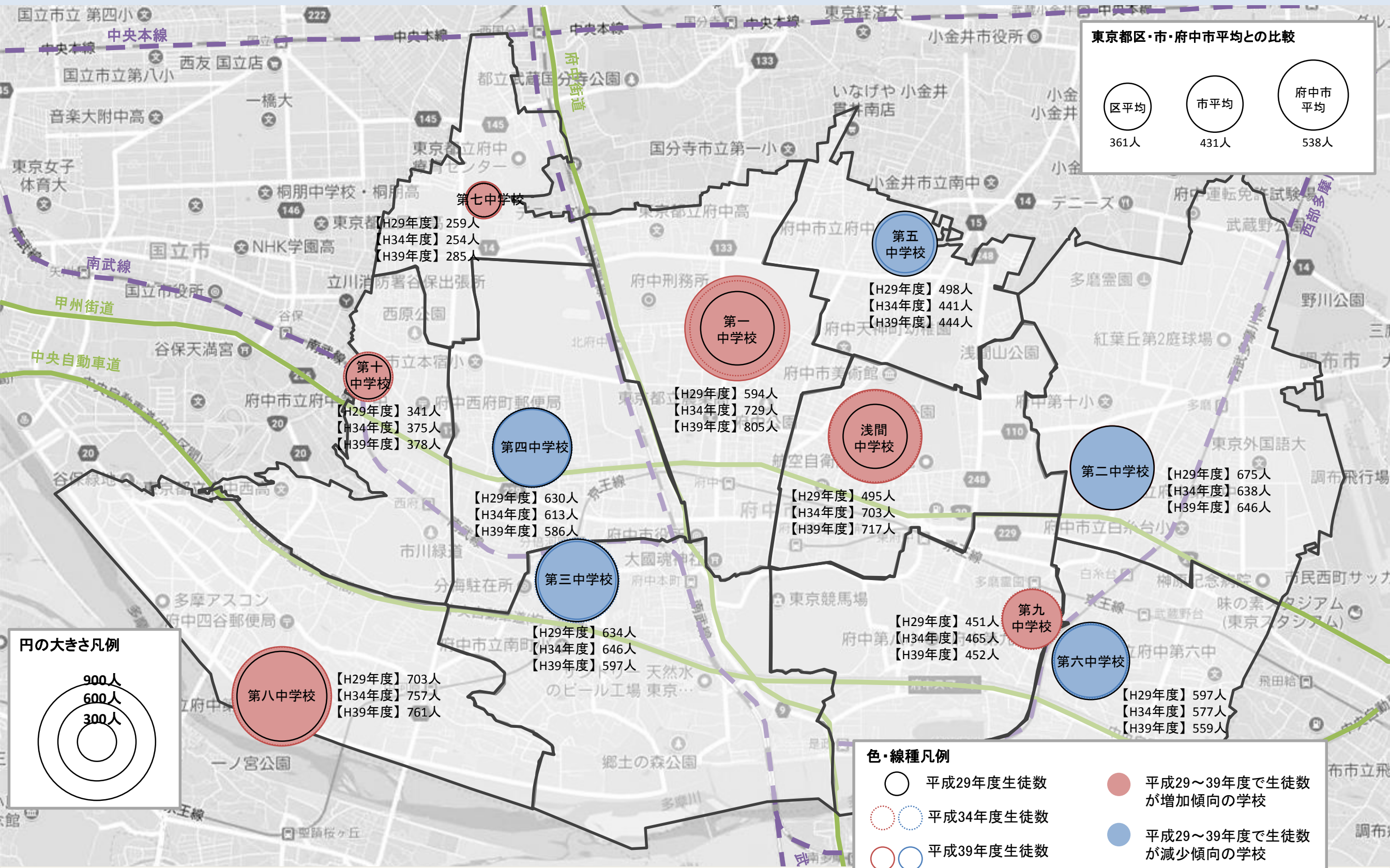
データ：全 国＝国立社会保障・人口問題研究所HP／『日本の将来推計人口(平成29年推計)』(平成29年度)
 東京都＝東京都／東京都男女年齢(5歳階級)別人口の予測(平成29年度)
 府中市＝府中市／府中市人口ビジョン府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成27年度)

小学校の児童数推移



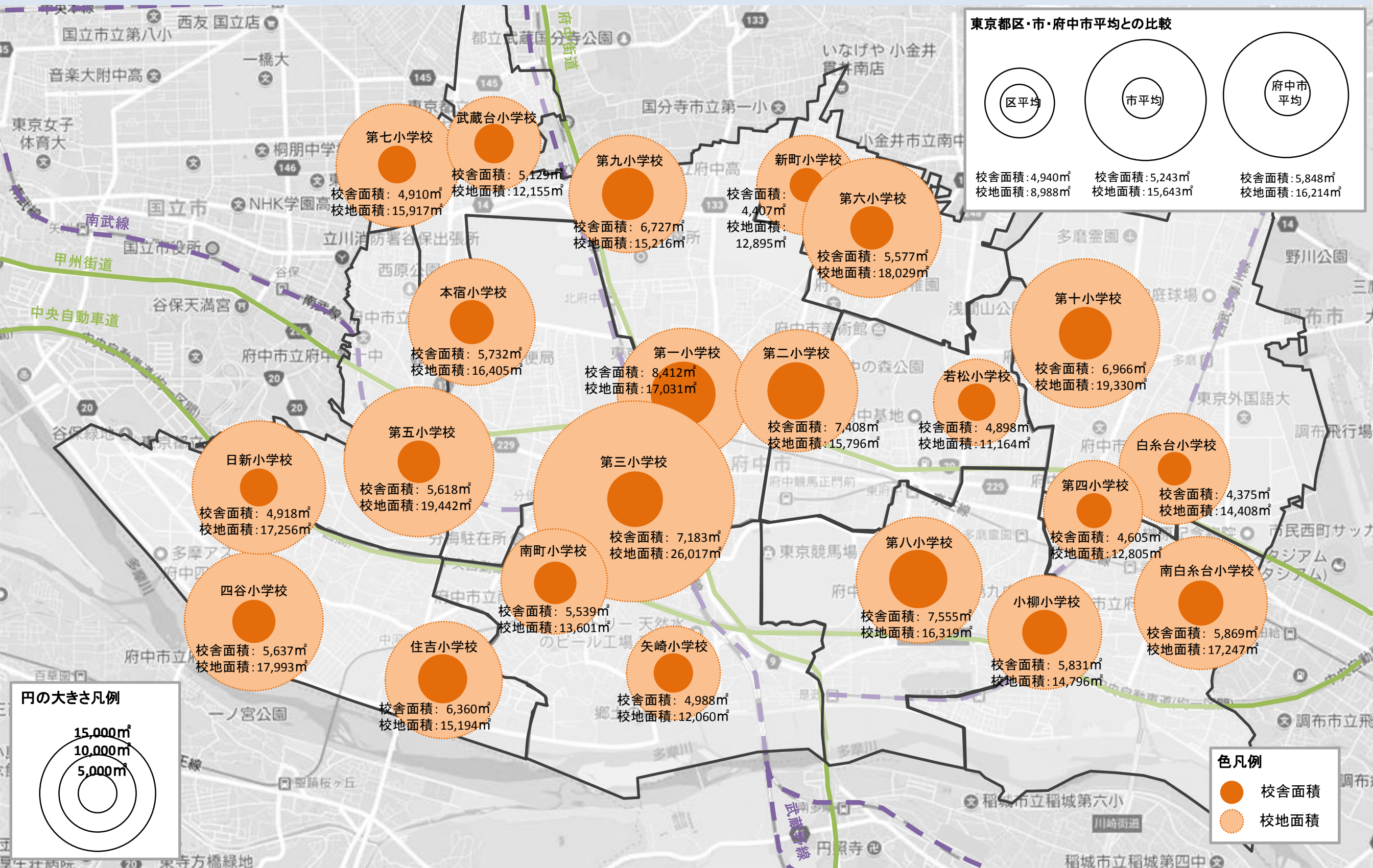
※1: 平成29年度の児童数は特別支援学級を含む5月1日現在の数。平成34年度・39年度の児童数は推計値
 ※2: 東京都区・市・府中市平均との比較は、東京都「東京都における小中学校施設の現状」文部科学省/「公立学校施設実態調査」から（平成28年5月1日現在）

中学校の生徒数推移



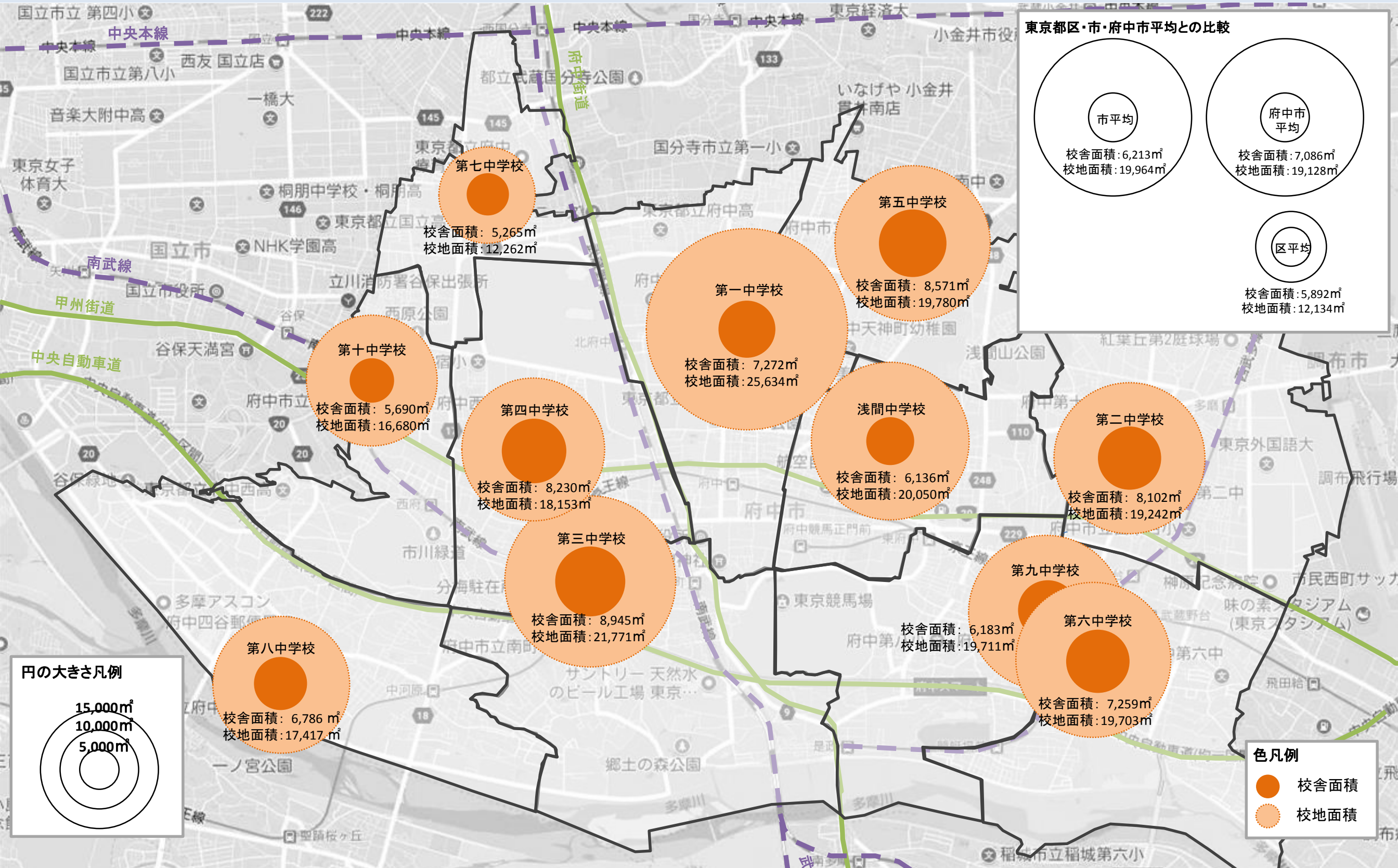
※1: 平成29年度の生徒数は特別支援学級を含む5月1日現在の数。平成34年度・39年度の生徒数は推計値
 ※2: 東京都区・市・府中市平均との比較は、東京都「東京都における小中学校施設の現状」文部科学省/「公立学校施設実態調査」から（平成28年5月1日現在）

小学校の校舎・校地面積



※1: 校地面積は借用地を含む。
 ※2: 東京都区・市・府中市平均との比較は、東京都「東京都における小中学校施設の現状」文部科学省/「公立学校施設実態調査」から（平成28年5月1日現在）

中学校の校舎・校地面積



※1: 校地面積は借用地を含む。

※2: 東京都区・市・府中市平均との比較は、東京都「東京都における小中学校施設の現状」文部科学省/「公立学校施設実態調査」から（平成28年5月1日現在）

(4) 学校施設改築・長寿命化改修 計画の考え方

学校施設改築・長寿命化改修計画の考え方

(1) 学校施設の老朽化状況を踏まえた最適な計画とします

- ・ 学校施設の老朽化対策として、改築、長寿命化改修、大規模改修等、様々な手法がありますが、築年数が50年を超える建物が多くあり、「改築」を中心とした計画とします。

(参考) 長寿命化改修に適さない建物

- ① コンクリート圧縮強度が 13.5 N/mm^2 未満の建物
- ② 建築年数が45年以上経過した建物

(2) 教育環境の充実を図ります

- ・ 各教室、各部屋などの市全体の整備方針を定め、学校間での施設面の格差の是正を図るとともに、建設費用の平準化を図ります。

(3) 地域と連携し、地域の拠点となる学校を目指します

- ・ 学校の地域開放、複合化も視野に入れ、教室配置や改修などについて、フレキシブルな対応が出来る学校づくりを目指します。
- ・ 災害時に一次避難所として学校が備えるべき機能を検討し、それに合わせた学校づくりを目指します。